

平成27年度 学校評価報告書

中期目標(今年度の学校経営の重点)	短期目標(具体的な目標)	成果・取組指標(目標達成のための手立て)	自己評価		改善策	学校関係者評価		
			達成状況	評価		考察	評価	
① 基礎・基本の定着 主体的に学習することのできる子どもの育成	学習指導方法の工夫・改善	自分の考えを持って学習に参加できた割合70%以上を目指す。 ・自分の考えを持つ活動を取り入れる。 ・伝え合う方法を工夫する。	・自分の考えを持って学習に参加できたとアンケートで肯定的に答えた児童の割合は85%であった。 ・低学年はペア学習、中学年からはグループ学習に取り組んだ。メンバーや課題によって差はあるが、児童の喜んで伝え合う姿がたくさん見られた。	A	考えをもつことのできにくい児童への支援策の策定や課題内容の工夫、学級や個々の児童の実態に応じたグループの規模(人数構成)の適正化に努めていく。	・朝学習のやり方、取組の中で継続すること、復習の大切さを指導してほしい。 ・サタデースクールが始まり、地域と学校との連携、情報交換を視野にいれ、子どもが意欲を持つよう指導してほしい。	A	
	個々の児童の実態に即した指導	学習内容が定着しているか実態把握を行う。	・漢字・計算テストを定期的に行い、つまずきを把握する。 ・少人数担当との連携などにより、児童の実態把握に努める。	定期的な小テストによる評価は実施できたが、つまずきの実態を把握した上での個別指導は不十分であった。	A			・諸行事等への対応のため時間確保が難しい状況ではあるが、可能な限り放課後や長期休業を活用した学力補充の機会の確保と朝活動での取組を検討する。 ・個別指導が完了した児童が放課後練習等に参加できることとする。
		少人数指導やTT授業などにより、個に応じたきめ細やかな指導方法を工夫する。	・児童の実態に合わせ、指導形態を工夫するとともに、難易度の調整や個に応じた支援を行う。	算数科を中心に、少人数指導やTT指導は学級の実態や単元の内容に応じて柔軟に対応し、指導の形態を工夫した。児童が意欲的に学習する姿が見られた。	A			・教育課程編成の方針に少人数指導のねらいを明確にし、事前に年間計画に位置づけたりして、学校全体の共通理解と協力体制づくりに今後も努める。 ・低学年はTT指導を基本とする。
		特別な教育的支援を必要とする児童への指導の内容と方法を工夫する。	・「子どもを語る会」の定期的・継続的開催と記録の回覧により、全教員で情報の共有を図る。 ・気になる児童の授業参観や生活観察をCo.が行い、支援の在り方を担任や支援員等と探っていく。	・子どもを語る会や校内支援評価委員会の開催により、管理職と担任、Co.の情報共有、支援策の検討等、個に応じた指導の充実に努めることができた。 ・Co.の授業参観は十分に行えなかった。	B			校内支援評価委員会により、指導と評価の一体化、支援の工夫・改善を関係する教員で共に考えることができています。今後も継続していくが、保護者との連携のため個人懇談前に開催する。
	家庭学習の定着・習慣化	目標としている家庭学習の時間(10分×学年以上)を達成している児童の割合70%以上を目指す。 ・家勉強がんばりウィークの結果を生かす・自学のやり方を紹介し、指導する。	・目標とした家庭学習時間を達成した児童の割合は81%であった。 ・学級便り等でのよびかけにより、土日の家庭学習が増えてきた。	B	・自主学習のやり方を指導したり、良い取組を共有したりして、学び方を広めていく。 ・各学年や全校の実態を家庭に積極的に伝え、協力を求める。			
② ふるさと教育	地域人材の積極的活用を図る	地域教育コーディネーターとの連携を密にし、そのネットワークを活用することを通して、ふるさとの「ひと・もの・こと」から学ぶ機会を作る。	・各学年とも年間指導計画にそって充実したふるさと教育を展開している。しかし、学年間での情報交換の場や、校外への情報発信の機会が不足しているため、学校全体の取組が全校児童や全職員にはっきり見えないことが課題である。 ・地域教育コーディネーターの活用や地域コミュニティーセンター・公民館等地域の教育資源の活用について、教職員への意識や周知について課題がある。	B	・年度始めの職員会議での共通理解の場の設定。 (全体計画・年間指導計画・地域コーディネーターの活用・地域の教育資源の周知等) ・学期ごとの情報交換及び成果発表の場の設定。 ・一目で学校全体のふるさと教育に関する活動がわかるような掲示を工夫する。 ・担任の工夫や地域資源の変化にともなう年間指導計画の改善を行う。 ・夏季休業中に職員研修として地域巡検を実施する。	・年間計画の早期策定を願う、その引継ぎを密にしてほしい。 ・地域の人たちとの交流はもとより、ふるさと教育を推進、充実を引き続いて行ってほしい。	B	
	地域から学んだことを積極的に発信していく工夫	地域学習の学びや喜びを地域に返す場を設定する。 ・学習成果物の公民館掲示や地域学習の発表の場を学習過程に組み込む。 ・学校・学級便りや学校HPでの積極的な情報発信に努める。						

中期目標(今年度の学校経営の重点)		短期目標(具体的な目標)	成果・取組指標(目標達成のための手立て)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				達成状況	評価		考察	評価
認め合い、学び合える人間関係の育成	① 人権・同和教育を全ての教育活動の基底に据える	全ての教育活動の中で、人権・同和教育を推進する	児童の自尊感情、対人関係意識の高まりを目指した取組を行っている。	・人権意識の高まりに向けた日頃の取組や人権に関わる話題について語り合う時間や場を意図的に設ける。 ・人権集会の実施や学級経営上での互いを認め合う場を設定し、継続的に指導する。	・全校で集まった場での感想発表の場を設け、安心して自分の意見が伝えられるよう指導してきた。 ・おもいやりのある言葉がけができるよう発達段階に応じた取組を各学年で行った。	B	・学級活動等での系統立てた指導を行う。 ・全校での集会は継続する。 子ども達の言動や仲間づくりに課題が多くある。地域や家庭と連携した取組を推進する。	A
		特別支援学級、通級指導教室、通常の学級におけるニーズに応じた特別支援教育の積極的推進	特別支援教育Co.を中心に、校内支援体制の充実を図る。	・校内支援体制の見直しを定期的に行うとともに、職員に体制が見える形にし周知を図る。 ・特別支援教育便りを年4回発行し、特別支援教育の理念や具体的な指導の在り方、家庭関係機関との連携等について校内に情報を発信する。	・教務主任とCo.の連携の下、にこにこST等支援員の配置を児童の状況に応じて適宜見直し、支援体制の整備と充実に努めた。 ・特別支援教育便りの発行を計画的にできた。理解啓発の更なる促進のためには、発行回数や内容について検討が必要である。	A	・適宜な支援体制の見直しにより、支援員等からの学級や個々の児童の状況情報が教務主任やCo.によく入るようになっている。全員で支えるという意識の醸成に今後も努めたい。 ・定期的な校内への支援体制の情報発信を行い、共通理解を図る。	
		授業公開による家庭との連携	参観日実施と職員研修をリンクさせる。	・人権に視点を当てた参観授業を行う。授業実施に向けて、事前の職員研修での意見交換、指導案及び実施後の考察を記録する。	・12月に人権教育に視点をあてた参観授業を行った。 ・高学年では、同和問題学習の研究授業を実施した。	A	・全教職員による職員研修の場を学期に1回設ける。 ・重点項目を設定し、職員が範を示しながら指導を徹底する。	
② 道徳教育、心の教育の充実	道徳教育の要としての「道徳の時間」の充実を図る。	道徳の授業時間の確保と授業改善	・初任者研修等の研修の場を生かし指導過程や指導方法の工夫について教員同士で情報交換する場を持つ。	年間指導計画にそっての授業により、時間の確保は、すべての学級で行われているが、授業改善のための全教員による情報交換は不十分であった。	B	道徳教育推進教員のリーダーシップの下、職員会議に道徳の授業改善に関わる研修を位置づけ、全教員が学ぶ場を設定する。	B	
		計画的な教育相談の実施と友達の良さを認める場の活用	共感的な態度での児童理解を図る。	・いじめ等のアンケートをもとにした定期的な教育相談の実施と認め合い高め合う集団づくりに努める。	・様々な取組を試みているが、今ひとつ児童の心に届いている実感が持ちにくい。仲間を傷つける言動も見られている。	B		・互いの良さを認め合う縦割り班による活動を取り入れる。 ・集団づくりに関する職員研修を開催する。
		読書活動の推進	読書好きの児童を増やすために読書活動を工夫する。	・津宮小読書週間を設け家読を推進する。 ・図書委員会と連携した読書活動を工夫する。 ・読書感想文、読書ノートの指導の充実を図る。	・読書週間を学期に1回ずつ実施した。 ・委員会児童による読み聞かせは、事前練習も本番も計画通りできた。 ・読書ノートの取組にクラス間で差があり、反省となった。	A		・読み聞かせに加えて読書郵便やおすすめの本等、他の活動にも取り組む。 ・学年単位で相談し、取り組む活動を計画する。
		生徒指導の充実	気持ちよく学校生活を送ることができる児童を育成する。	・生徒指導主任を中心とした組織的な指導に努める。 ・あいさつ、返事、くつそろえ、言葉遣い等、集団生活に生きる指導に努める。	・生徒指導の組織の機能が弱い。 ・改善できているところもあるが、落ち着いて生活する雰囲気があるとは、まだ言えない。	B		・児童会を軸とした、あいさつ、返事、くつそろえ、言葉遣い等に関する取組を行う。 ・環境整備、ふるまいはまず教職員からという意識をもつ。 ・教職員の共通理解を徹底する。決めたらやり切る。 ・月目標を各委員会に下ろす。

中期目標(今年度の学校経営の重点)		短期目標(具体的な目標)	成果・取組指標(目標達成のための手立て)	自己評価		改善策	学校関係者評価		
				達成状況	評価		考察	評価	
自ら健康を作りだしていくことのできる子どもの育成	①健康な心と体づくり	基礎体力の向上を図る	自主的に体力づくりに取り組む児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童会の活動として全校マラソンに取り組むことで、児童が目標をもち、主体的に取り組めるようにする。 継続的に取り組みながら、強化週間・月間等を設定することで、体力づくりへの意識を高め、意欲的に取り組めるようにする。 	今年度は全校マラソンに加え、全校縄跳びチャレンジの取組も行った。マラソンカードに走った周回数を記録し、強化月間を設定した。短縄は個人用カードでの進級制、長縄は各クラスの記録を掲示し、取組に対する意識や意欲を高めることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 季節に応じて児童が楽しんで取り組める内容で計画する。 通年で取り組むことで、体力向上につなげていく。 記録カード等を作成したりファイル化したりして、頑張った姿が見えるようにする。 	健康で安心して楽しく学校生活ができるように体力づくり、心身づくり、食育等の健康教育・指導に引き続いて取り組んでほしい。	A
		保健指導・食に関する指導の充実	より良い生活リズムづくりに向けて、健康教育を行う。(食事・睡眠・運動)	<ul style="list-style-type: none"> 各学級、年間1時間、栄養教諭と連携し、食のノート等を活用した食育を計画通りに行う。 学期始めに、生活リズムの点検を行い、個に応じた指導をする(2・3学期) 	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り、各学級年間1時間、栄養教諭と連携した食育指導を行った。 生活リズムの点検も計画通り実施した。毎朝、全校児童のカードを点検し、個に応じた指導に努めた。 	A	今後も栄養教諭と連携した食育指導を計画実施したり、学校と家庭が連携した保健指導をしたりして、よりよい生活リズムづくりにつなげていきたい。		
	②安全な生活	安全教育の充実による自己防衛力の向上	安全・安心な学校環境の整備を図る。災害時の適切な避難方法を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で、月に一度の安全点検を行なう。 避難訓練での学級指導と振り返りを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回、安全点検を実施した。点検簿の回収に時間がかかったことは反省点である。 避難訓練での事前指導及び振り返りでは、学年に応じた危機管理についての指導が徹底できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一斉安全点検の日を設定し、複数の目で点検する機会をもつ。(チェック項目の精選。チェック箇所の修繕の要望) 子ども目線の定期的な安全点検を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故の発生を未然に防ぐために連携して、危険箇所の点検修理、システムづくりの強化に努め、マニュアルを活用した危機管理研修を実施押し、安全管理に努めてほしい。 	A
		教育活動中におけるけがや体調不良などへの適切な対応	担任と養護教諭が連携して、迅速な対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 適切な応急処置と事後の経過観察を行う。 担任から、家庭への連絡を行う。 	担任と養護教諭の連携により、応急処置や事後の経過観察の徹底はもちろん、事故発生の状況確認等も適切に行った。家庭への連絡も遅滞なく行うことができた。	A	今後も担任と養護教諭の連携を大切にし、当該児童及び保護者に対して、適切かつ丁寧な対応に努めていく。		
		危機管理体制の確立	事件・事故に対する対応策を準備し、緊急課題に適切に対処する。	<ul style="list-style-type: none"> 事件・事故等への対応を予め想定し、組織的に緊急課題に対処する。 危機管理マニュアル等を整備し、職員研修等を通して教職員に周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 未然防止に向けた日常の取組や危機発生時の組織的な緊急対応については、ことあるごとに確認を行ってきた。 児童の実態に即した全教職員を対象とした緊急事態発生時の対応訓練や確認ができていない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアル等を活用した実際に動く緊急対応訓練を行う。(授業中・休憩時間の事故、給食アレルギーによる事故等) 		

中期目標(今年度の学校経営の重点)	短期目標(具体的な目標)	成果・取組指標(目標達成のための手立て)	自己評価		改善策	考察	評価	
			達成状況	評価				
家庭・地域社会とつながり、よりよい教育を提供する学校づくり	積極的な情報発信、計画的な教育活動の公開	学校経営方針や教育活動の情報を積極的に発信し、理解啓発を図る。	・計画的な学校便りの発行や学校HPの更新、学校行事等の適時的案内を行い、教育活動を広く保護者や地域に公開する。	・学校便りの計画的発行や参観日や行事等公開により、教育活動情報を積極的に発信できた。 ・学校HPの更新が不十分であった。	A	・積極的な情報発信とともに、地域等からの情報・意見収集にも努めていく。 ・学校HPの学校便りの掲載を中心とした最低限月1回の更新に努める。	・情報発信が充実してきている。(地域へ回覧で周知) これからも地域とのつながりを共有することに努めていただきたい。 ・研修を重ね、方向性を打ち出し、実践による成果が見られるように学校全体が統一した取組を目指してほしい。	A
	学校改善を進めるための学校評価の活用	校務分掌組織を活用した学校経営の一貫としての学校評価に努める。	・各分掌で短期目標の設定、達成状況の確認、評価、改善策の検討を行い、組織的・継続的な改善に努める。 ・学校経営方針の評価と他の評価指標との突き合わせを行うことで、評価により客観性をもたせる。	学校評価のPDCAサイクルを分掌組織を活用して進めたことにより、学校改善に全教員が参画することができた。	A	客観的な評価のためには、評価指標の設定段階での十分な検討が必要である。		
	指導力・対応力の向上を図る校内研修の推進	教職員のサービスに応じた資質能力の向上のための職員研修を充実する。	・初任者研修、経験者研修、テーマ研修、能力開発研修等の学びを共有する場を設定し、学校としての実践的指導力の向上を図る。 ・人権・同和教育研修、特別支援教育研修等校内研修を充実させる。	・2学期開始前に各種研修会での学びを共有する機会をもったことは、学習・生徒指導の上で有効であった。 ・校内研修として、思考ツール活用研修、外国語活動研修を実施した。	A	喫緊の課題に対応する、学力向上のための授業づくり研修とそれを支える学級経営・学級づくり研修、全ての基盤となる人権・同和教育研修の充実を図る。		
	教育環境の整備	落ち着いた学習・生活に取り組むことのできる環境づくりをする。	・ユニバーサルデザイン化の工夫を定期的に見直し、改善を図る。 ・情報交換の場を設け、各部が連携し、組織的に取り組めるようにする。	・年度始めの職員会議で共通理解を図った。職員室内での情報交換を密に行い、問題があった場合は早急に対応することができた。	B	・落ち着いた学習環境を整えられるようアイデアをもちより、改善していけるような会議を定期的に行う。 ・学校全体で統一した取組を検討する。		
人との関わりを学ぶ場を学校全体及び各学年で設定し、取り組む。		・縦割り班活動を定期的実施する。 ・学級経営での成果や課題を紹介し合う場をもちながら、学校全体での方向性を決定し、共通理解の上進めていく。	・ほっとハート集会や縦割り班遊びなどを行った。 ・アンケートQUをもとに、学級経営をふりかえる場を設定した。各学級の状況の共通理解や、学級の機能改善に係る取組の実践例を共有した。	B	・縦割り班活動では、指導が必要な場面が多くある。子ども達の体験不足を補っていくための支援を行う。 ・回数の確保とロング屋休み等時間の活用について検討する。			

自己評価については、A:十分達成 B:ほぼ達成 C:一部に課題がある D:大きな課題がある とし、

アンケート結果、実績値などの数値化によって評価する。 その場合、100%の達成率に対して、A:80%以上 B:60~79% C:40~59% D:39%以下とする。